

エコロジカル トランスフォーメーション： « Are we ready ? »

BAROMETER OF THE ECOLOGICAL TRANSFORMATION
調査レポート

調査概要



調査対象国の選定

5大陸25カ国、25,000人以上(1国あたり約1,000人)を対象に実施。日本人回答者数:1,004人
実施国は人口統計、GHG排出量、政治的および文化的な生態学史の多様性を公平に確保しています。
調査実施国は世界人口の約60%、世界の GHG 排出量の 68% を占めています。



調査方法と実施時期

2022年8月24日～9月26日(日本は2022年8月25日～9月8日実施)
オンライン調査



調査対象者

各国、代表的な18歳以上の居住者サンプルを抽出。
代表性は、性別、年齢、社会的職業、収入(国によって異なる)、居住地域の変数に適用される割当方法に従って確保



Results "World Opinion"

「世界全体の世論」の結果として構成するため、各国を1としてカウントし、人口による重み付けはしていません。
人口の多い国(特に中国とインド)が結果の平均値になることを避け、各国の多様性を表すためにこのような方法を取っています。



調査頻度(予定)

18カ月ごと

調査実施国(25か国)



				回答者数	世界人口に対する 国の人口の割合	世界のGHG 排出量に占める 割合
合計				25 111	59,4%	67,7%
アフリカ						
1		CIV	コートジボワール	1 005	0,3%	0,1%
2		MAR	モロッコ	1 030	0,5%	0,2%
3		NGA	ナイジェリア	1 000	2,6%	0,7%
アメリカ						
4		BRA	ブラジル	1 006	2,7%	2,3%
5		CHL	チリ	1 006	0,2%	0,2%
6		COL	コロンビア	1 005	0,6%	0,4%
7		USA	アメリカ合衆国	1 002	4,2%	13,0%
8		MEX	メキシコ	1 003	1,6%	1,4%
東アジア						
9		CHN	中国	1 000	18,1%	27,4%
10		IND	インド	1 002	17,5%	7,3%
11		IDN	インドネシア	1 000	3,5%	2,2%
12		JPN	日本	1 004	1,6%	2,5%
ヨーロッパ						
13		DEU	ドイツ	1 006	1,1%	1,6%
14		BEL	ベルギー	1 008	0,1%	0,2%
15		ESP	スペイン	1 000	0,6%	0,7%
16		FRA	フランス	1 001	0,8%	0,9%
17		FIN	フィンランド	1 003	0,1%	0,1%
18		ITA	イタリア	1 002	0,8%	0,8%
19		NDL	オランダ	1 002	0,2%	0,4%
20		POL	ポーランド	1 000	0,5%	0,8%
21		CZE	チェコ共和国	1 005	0,1%	0,3%
22		GBR	イギリス	1 003	0,9%	1,0%
中東						
23		SAU	サウジアラビア	1 002	0,4%	1,6%
24		ARE	アラブ首長国連邦	1 011	0,1%	0,5%
オセアニア						
25		AUS	オーストラリア	1 005	0,3%	1,3%

主な 調査結果

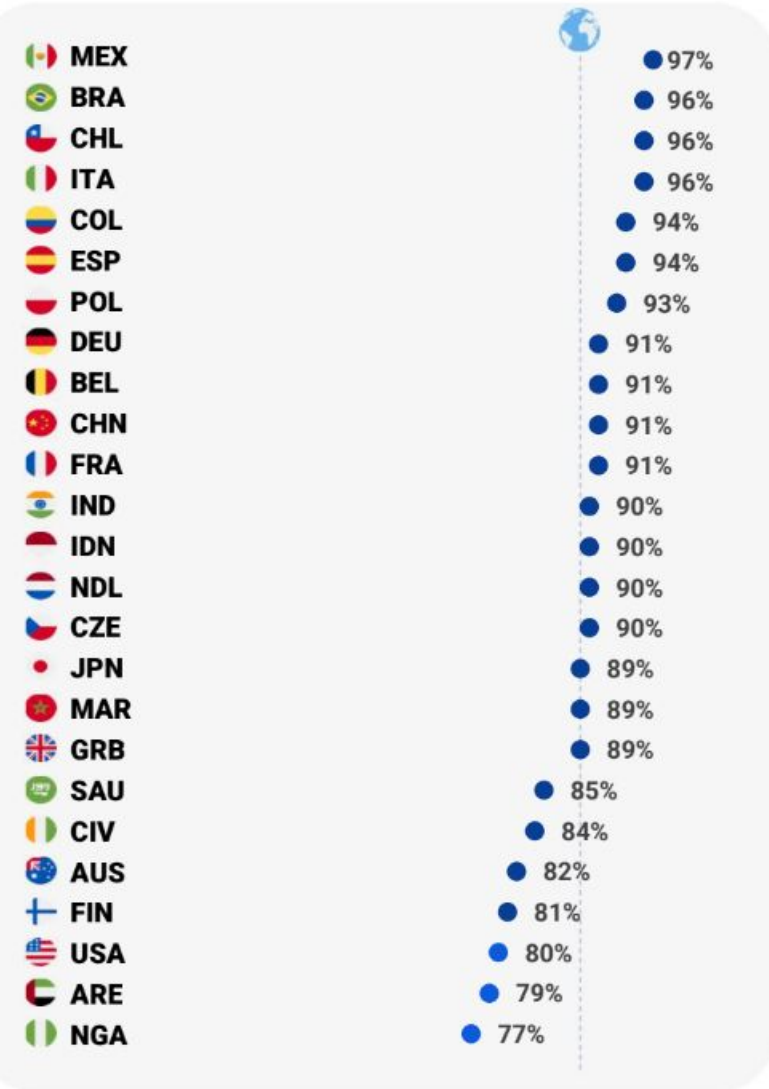
1

気候変動は現実に行き始めている

Q. 現在、地球上で気候変動が起きていると思われますか。

89% 

の回答者は、**気候変動は実際に現在起こっている**と確信している



2

気候変動は人間の活動が原因であると7割の回答者が認識

Q. 人間の活動が気候変動の原因になっていると思われますか。

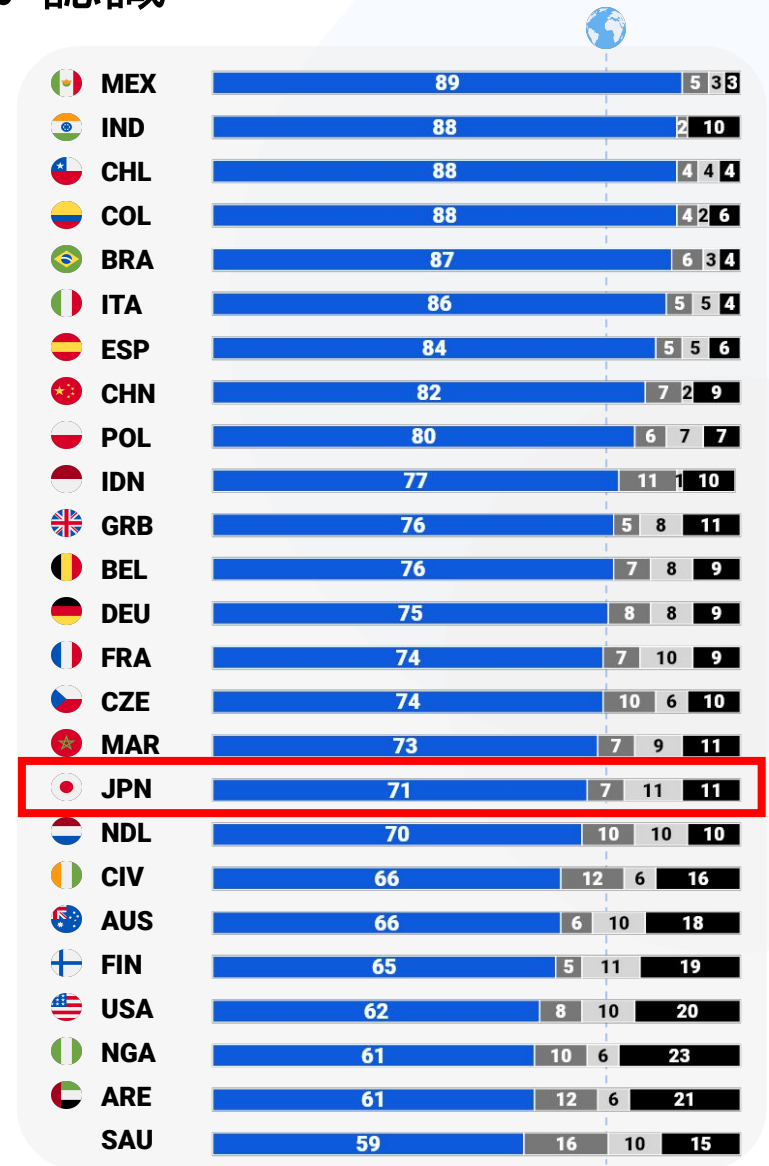
気候変動は...

71% **人間による活動が原因
だと思ふ**

7% **自然現象だ**

11% **« 原因は知りえない »**

11% **« 異常なことは
起きていない »**



3

気候変動問題の未来は私たちの手中にあると考えている回答者は半数以上

Q: 未来はまだ私たちの手中にあり、まだ気候変動や汚染を抑制できると思われますか、それとももう手遅れだと思われますか。

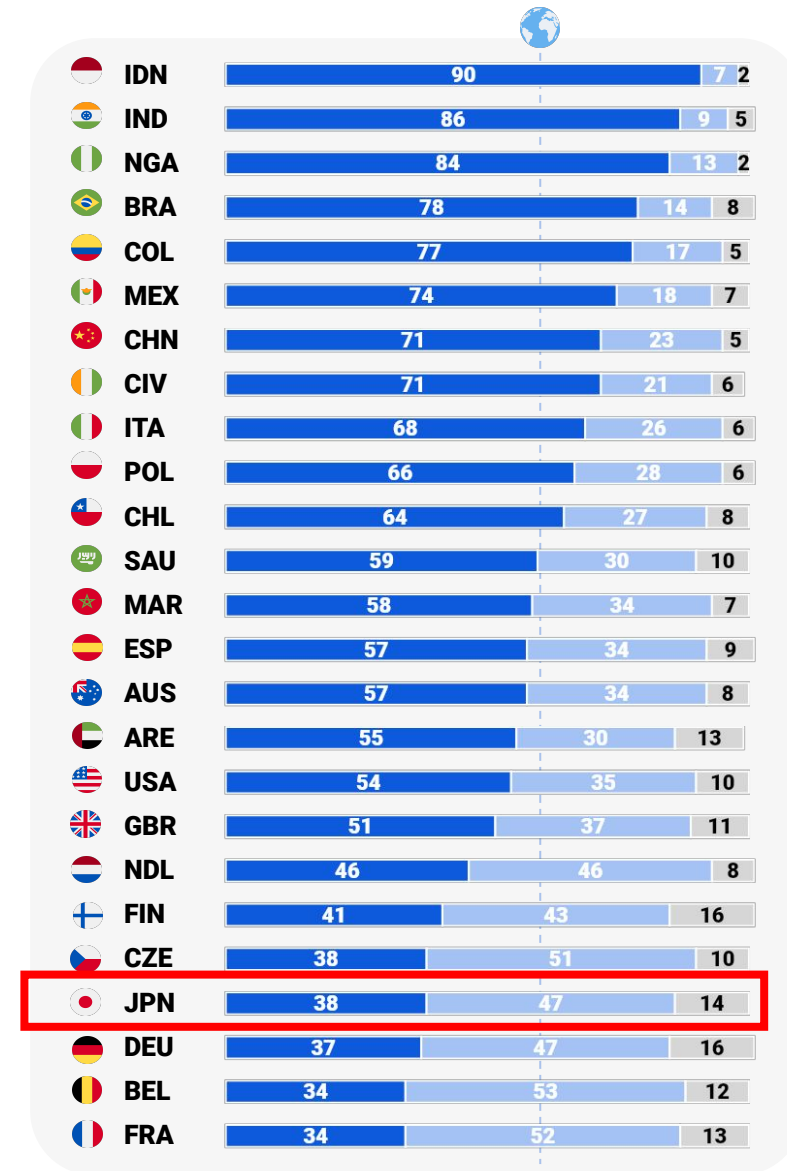
60% 未来はまだ
私たちの手中にあると
確信している



30% わからない



8 遅すぎる

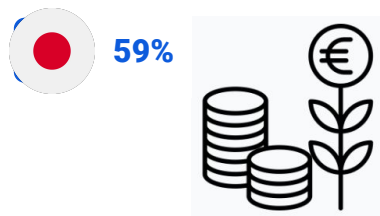


4

環境課題に対して、行動を起こさない代償の大きさを確信している回答者は約6割

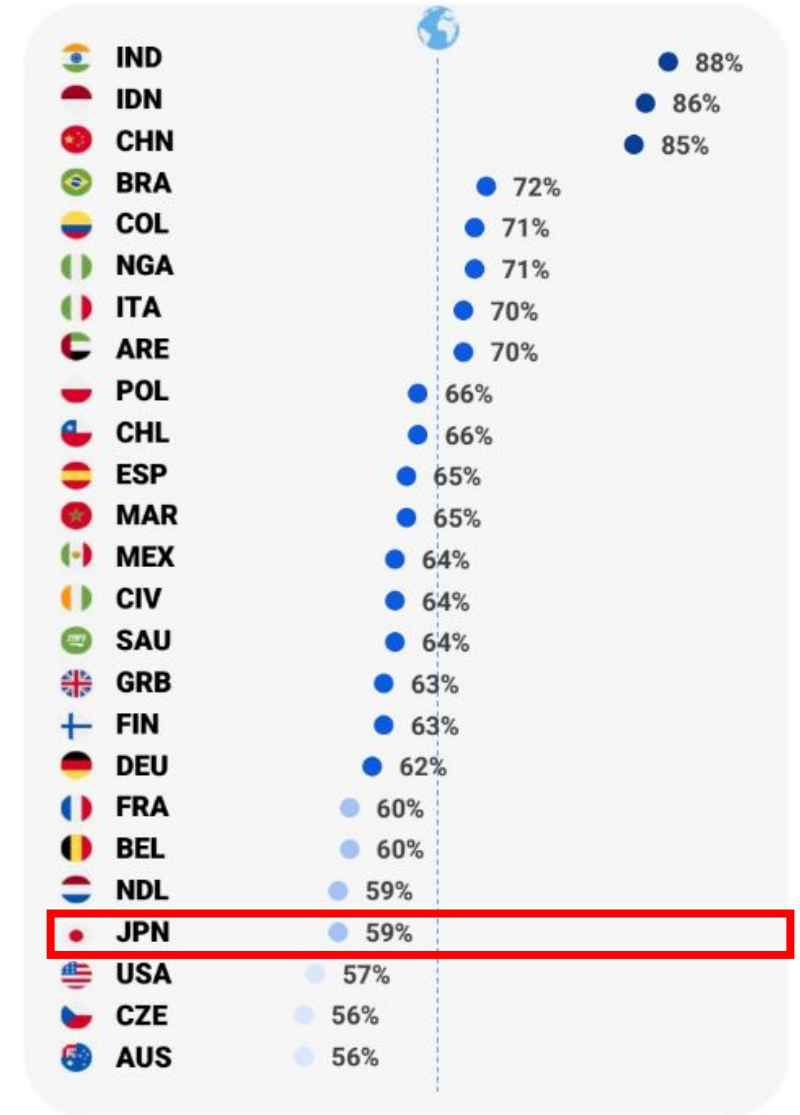
67%

気候変動や汚染によるコストは
エコロジカル・トランスフォーメーションに
必要な投資よりも大きくなる^{*}と確信している



Q: 専門家は、気候変動や汚染に関連した被害によって発生するコストは、環境を意識した社会^{*}に変えるために必要な投資額よりも大きくなると述べています。あなたは、これは正しいと思われるか、間違っていると思われるか。

^{*}エコロジカル・トランスフォーメーション



5

エコロジカル・トランスフォーメーション 実現後の生活について 6割の人が想像できないと回答

Q. 気候変動を抑え、汚染を減らすために、社会やライフスタイルのさまざまなことを変える必要があると聞いたとき、環境を意識した変革を実現した場合、日常生活がどのようなものになるかを想像するのは容易ですか、それとも難しいですか。

60%

エコロジカル・トランスフォーメーション実現後の日常生活がどのようなものか想像がつかない



36%

なんとなくのイメージはあるが明確でない

24%

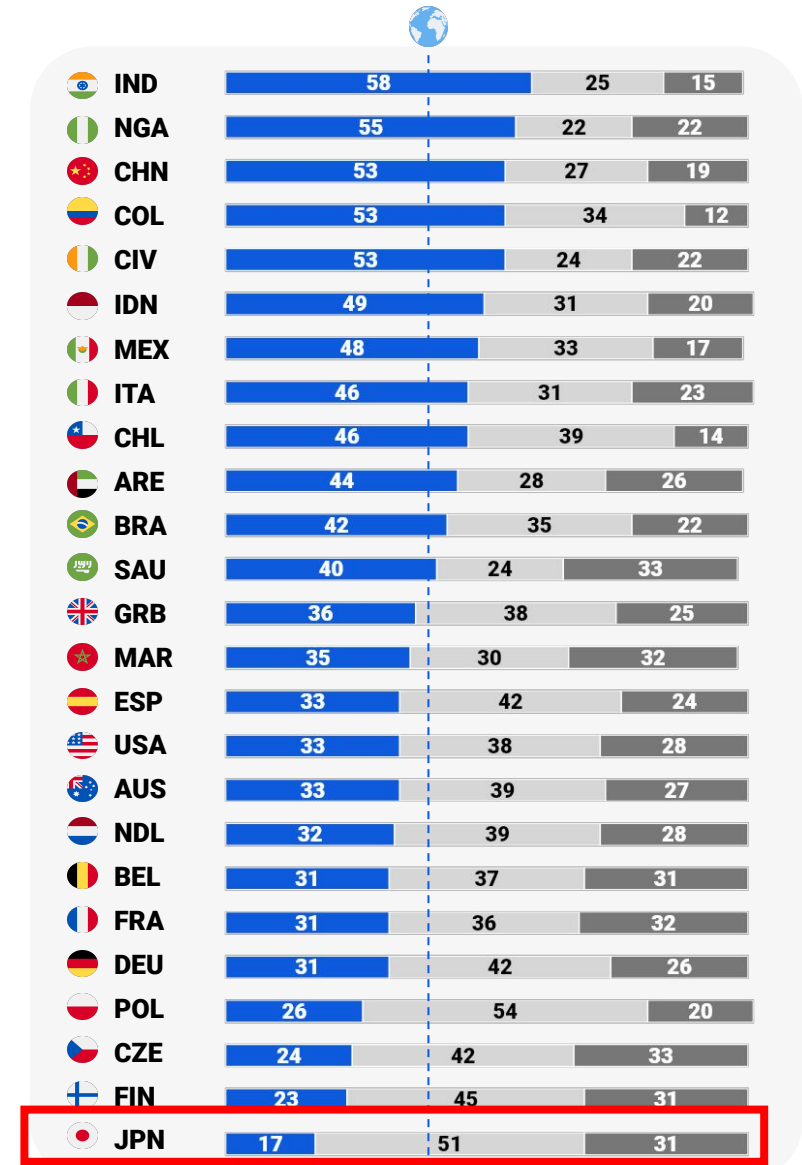
よくわからない

39%

エコロジカル・トランスフォーメーション実現後の世界そして生活がどのようなものか容易に想像できる



*エコロジカル・トランスフォーメーション



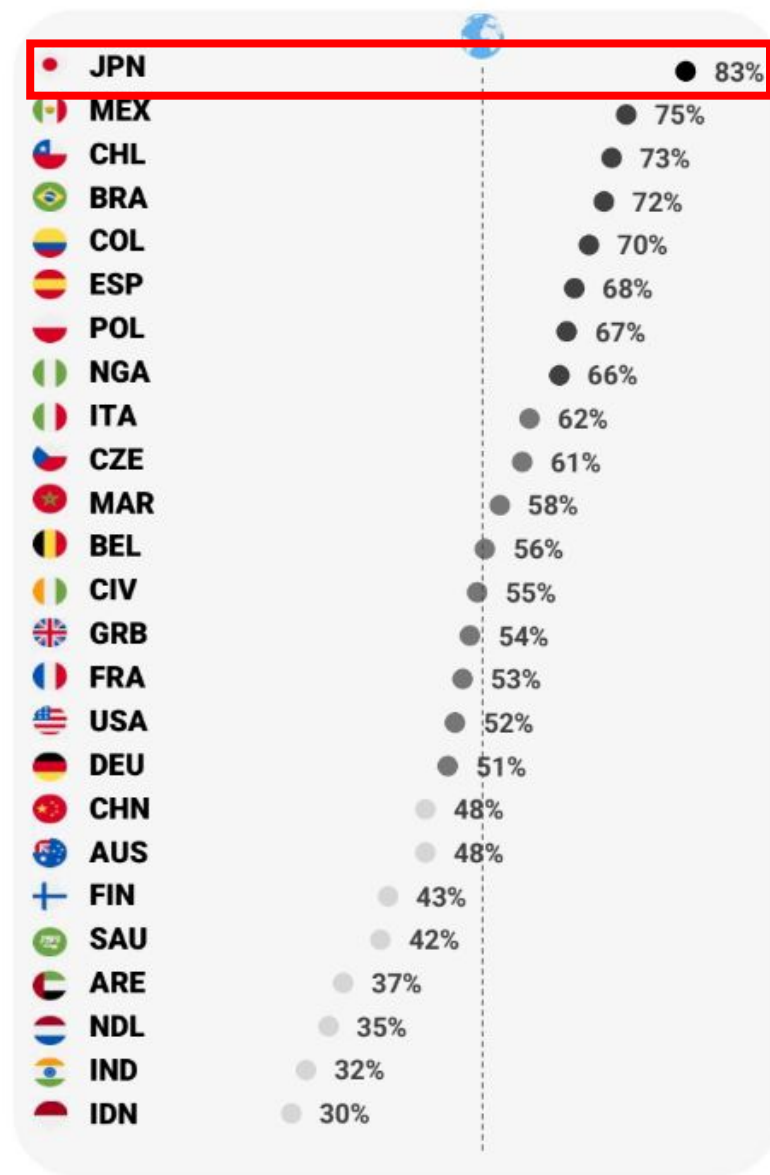
6

環境課題に対する議論も半数以上が不十分と回答

56%



環境課題に対して実施すべき**対策**が
十分に話し合われていないと考える



Q.あなたの国では、汚染や気候変動を緩和するために実施すべき解決策(ライフスタイルの変化、技術革新、規制など)について、十分に話し合われていると思いますか？